

平成18年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	プロテオミクスを基盤とした植物分子育種	研究代表者名	島本 功
-------	---------------------	--------	------

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア () 予定以上に達成した
- イ (×) 概ね予定どおり達成した
- ウ () 一部不十分である
- エ () 達成していない

意見：
概ね植物プロテオミクス解析法の基礎を確立したといえる。特に Defensome の成果は大きい。他の分担課題でも進展して欲しかった。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア () 十分に貢献できた
- イ (×) 概ね貢献できた
- ウ () 一部貢献できた
- エ () 貢献できていない

意見：
Defensome の成果は大きく評価される。しかし分担者間の連携を介した成果への努力は十分なされたとはいえない。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (×) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
Defensome の成果は当該分野においてブレークスルーとなった点は学術創成として評価される。一方分担課題についてももう少し解析を進めて欲しかった。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (×) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
成果が国際的に認知されるに至った点は高く評価される。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	期待以上の進展があった
×	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

本研究課題の目的は植物でのプロテオミクスの方法の確立と応用である。プロテオミクスでの方法論の確立は意義が大きい。分担者との連携を含む組織全体としての成果や応用への展開に物足りないものがあり、本プロジェクトを契機に今後融合的な研究が進められることを期待する。